

単元名 責任ある消費者になるために

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに、それらに係る技能を身に付けることができる。
 (2) 自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。
 (3) よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

標準的な展開例

15290202_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 消費者としてできることを考える。 ★消費者の権利と責任について考えよう。 ○消費者の権利と責任について理解する。 ・8つの権利 ・5つの責任 ○生活の中で、消費者の権利と責任が当てはまる場面を考える。</p> <p>○消費者基本法について知る。</p> <p>2 省エネルギーと持続可能な社会について考える。 ★環境に配慮した消費生活を工夫しよう。</p> <p>○自分や家族のエネルギー消費が環境に与える影響について知り、エネルギー消費を減らす方法について考える。</p> <p>○循環型社会を目指すための消費生活を考える。 ・3R（リデュース、リユース、リサイクル）</p> <p>3 持続可能な消費生活について考える。 ★自分の生活を工夫しよう。 ○持続可能な社会を目指して、自分や家族ができることを考える。</p> <p>○消費生活について振り返り、学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と責任については、中学生の消費行動や具体的な事例と関連させて考えさせる。 ・購入した商品に欠陥があった場合はどうするかなど、具体的に考えさせる。 【評】消費者の権利と責任が当てはまる場面を考える活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・消費者は権利の主体であることに着目させ、自分の生活を振り返り、消費者としての自覚を高めさせるようにする。 【評】自立した消費者としての消費活動を振り返る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・循環型社会について説明し、循環型社会の具体例を考えさせる。例えば、使い捨て容器とリサイクル可能な容器、食品の包装などを取り上げ、価格、利便性、環境との関わりなどの点から比較し検討させる。 ・家庭でできる省エネルギーについて冷暖房やシャワーなど具体例を挙げ考えさせる。 【評】自分の生活が環境に及ぼす影響とその対策について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・分別して出されたごみがどうなるか考えさせる。 ・自分が実践できる取組を具体的に考えさせる 【評】環境に配慮した消費生活を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・自分の生活の在り方を考えさせ、工夫し実践することの大切さを理解させる。SDGsについて説明し、環境に配慮した消費生活が持続可能な社会を形成する基盤であることに気付かせる。 【評】持続可能な社会のために自分ができることを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・これからの生活を展望して、一人一人が環境に配慮した生活を送る必要性について気付かせる。 ・長期休業などを利用して、実践を継続させたい。 【評】環境に配慮した消費行動をまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】